

旭川は川があるから発展した!

川のまち旭川

歴史探索マップ

旭川スポット 標高

飛行機 10,000m

雪雲 2,000m～3,000m

旭岳 2,291m

渡り鳥 1,800m

大雪旭岳源水公園 1,100m

就実の丘 362m

旭川空港 220m

東神楽町役場 176m

流雪溝の取水口 138m

旭川駅 113m

仕込み水 110m

流雪溝の放流口 103m

日本海 0m

旭川駅周辺

北海道の屋根・大雪山系に源を発する石狩川、忠別川(ちゅうべつがわ)、美瑛川、牛朱別川(うしゅべつがわ)の4本の河川が街中で石狩川に合流する**旭川は、「川のまち」と言われ、古くから川の恩恵を受けながら産業や生活の仕組みが発展してきました。**
JR旭川駅南口のすぐ前にも忠別川が流れ、そんな川のまち旭川を駅周辺で感じられるスポットをいくつか紹介します。



旭川駅

自然との融合 コンセプトは「川のある駅」

2011年に旧駅舎より約70m南側に建設された現駅舎は、忠別川に更に近づきました。新たに南口が設置され、北彩都ガーデンが造成されたことにより、四季を通じて川辺の散策などを楽しめるようになりました。

ホーム全体を覆う大屋根(全長180m、幅60m)は、**日本では類を見ない大胆な構成**です。大屋根を支える根元で4本に枝分かれたピン構造の鉄骨柱「四叉(よんさ)柱」は、1・2番と5・6番ホームでピンジョイント部分を確認することができます。また、ホームに向かう内壁のタモ材には、一般公募で募った1万人の名前が刻印されています。



忠別川右岸に彫刻が多いのは

中原悌二郎賞と彫刻のまち

旭川市は1年間(現在は2年間)に国内で発表された日本人作家の最も優れた彫刻作品に1970年から旭川市ゆかりの彫刻家 中原悌二郎の名前を冠した賞を贈り、その作品の収集に努めてきました。**国内で最も長い歴史を持ち**、これまで受賞した彫刻家は80名を超え、**日本の彫刻界最高の賞**とも言われています。平和通貿物公園の造成に合わせて街中に多くの彫刻が設置され、旭川は「**彫刻のまち**」と呼ばれるようになりました。

彫刻の公開制作を行う「**旭川彫刻フェスタ**」は2000年(平成12年)に始まり、彫刻のまちあさひかわの魅力をアピールする事業を現在まで続けています。野外彫刻の公開制作は、2年に一度のペースで2018年まで行われました。制作された彫刻は、野外彫刻として忠別川右岸の忠別橋公園などに設置されています。

外国樹種見本林

マップコード:79 312 094*48

北海道で最も古い**外国樹種人工植栽地**のひとつ。

木材需要への対応や山地災害防止、漁獲高の回復を目的に、1898年(明治31年)、ストロブマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパカラマツの植栽を開始。優良な樹木を導入する取組みの一環として当時、苗木生産技術のあった外国樹種を中心に、それぞれの特性を確認、展示するために造成したのですが、歳月を経るに従い**都市林としても重要な役割を果たすようになりました。**

1964年(昭和39年)12月から朝日新聞に連載された旭川出身の作家・三浦綾子の「**氷点**」でこの外国樹種見本林が舞台となったことから一躍有名になり、全国各地からファンが訪れています。



忠別川の名前の由来

忠別川の由来は、チウベツ(Chiu-pet波、川)波だつ川の意、それが後に民間語源解によってチュブベツ(Chup-pet日、川)となり、意識して旭川という地名が生まれたとも言われています。

忠別川の鮭の遡上

近年、サケの稚魚の放流活動等で10月頃に忠別川でサケの遡上が見られることがあります。

神楽岡公園

マップコード:79 284 703*57

神楽岡公園は、それまで街の中心部にある常磐公園が平坦地であるのに対し、上川離宮予定地だった丘陵地、神楽岡の御料林を1914年(大正3年)に帝室林野局から借用して、公園として開園したのが始まりです。

離宮計画地だったことで、明治開拓前の河畔林にみられる原始の景色がそのまま残され、**直径2mほどのドロノキ**などの高木が数多く残っています。

北側を流れる忠別川により形成された丘陵地形のため、公園の頂部と底部で20メートル以上の高低差があり、旭川市街地や上川盆地、大雪山系など**都市と自然が調和した美しい眺望**を望むことができます。



市民活動交流センター CoCoDe

マップコード:79 315 452*23

1898年(明治31年)の官設鉄道上川線の開通に伴って建設され、**旧国鉄旭川車両センター**として使われていた2棟の建物。明治時代の建築技術を今日に伝える**貴重な歴史的建造物**であり、現存する旧国鉄工場施設としては国内で最も古い建築物のひとつとされ、琵琶湖疏水や日本初の水力発電所を建設した土木技術者・田辺朔郎が携わったとされています。

鉄道の鍛冶工場と旋盤工場として使われ、1985年(昭和60年)旭川車両センター廃止後、改修を経て、2010年(平成22年)6月から旭川市市民活動交流センターとして開設されました。

竣工:1899年(明治32年)
構造:煉瓦造2階建(RC補強、改修前平屋建)
場所:北海道旭川市宮前1条3丁目
備考:2010年(平成22年)改修 国登録有形文化財



【発行】 旭川観光コンベンション協会 大雪カムイミンタラDMO
【監修】 あさひかわジオパークの会
発行/2025年3月

快適な冬の生活を支える中央地区流雪溝

雪が降った朝、旭川中心部では**市民が道路脇の流雪溝に雪を落としている光景**が見られます。川の自流量や地形の角度がある「川のまち旭川」だからこそ、その安定した水資源と地形を活かした流雪溝(道路の両側(地下1メートルの深さ)函型の水路を埋設)の設置を容易にしました。

Q. 流雪溝の水はどのように流れているの?
A. **忠別川の市街地上流から水を引き込み、中心市街地で投雪された雪を下流の石狩川に流しています。**
→利用にあたっては閉塞事故を防ぐため、区域毎に投雪時間を設定するなど地域住民で構成する運営協議会により投雪ルールを定めて利用しています。
【利用期間】11月10日～3月31日
【利用時間】午前6時～午後9時30分

Q. 忠別川の取水口が凍ることはないの?
A. **旭川の冬季の平均気温は氷点下5度以下になりますが、ミキサーを使って攪拌するなどして、取水口が凍らない工夫をしています。**

Q. 夏は使っていないの?
A. **常磐公園にある千鳥ヶ池の水質浄化に活用しています。**

旭岳

歩道のロードヒーティング

旭川市は冬期歩行者の交通安全対策のために、市街中心部の歩道に**ロードヒーティング**を設置しています。

Q. ロードヒーティングとは?
A. 車道や歩道の舗装内に電熱線や温水を循環させるパイプなどを埋設し、気象状況や路面状況に応じて断続または連続で路面を加熱して、防雪や凍結を防止します。旭川市では気温が低いため消雪パイプ(道路に埋め込んだパイプから路上に設置したノズルを通して路面へ地下水を散布する除雪・融雪・路面凍結防止装置)が凍結して利用できないのでロードヒーティングが用いられています。

Q. 熱源は?
A. **ガスや電気を使用しています。**

Q. 設定温度は?
A. 降雪・外気温・路面水分・路面温度の4要素で稼働の有無を判断します。基本的に路面温度が4℃となるよう設定し、運転しています。

Q. 旭川駅周辺の歩道の設置距離とコストは?
A. 旭川市内の歩道も含めた設置距離は約12kmで、電気・ガス料金は約3.6億円/年(2022年実績)です。

北彩都ガーデン

マップコード:79 313 859*42

1級河川・忠別川沿いに整備され、JR旭川駅南口に直結した都市景観と豊かな自然が適度に調和している全国的にも珍しいロケーションのガーデン(面積約12ha)。遠くに大雪山国立公園の山々を眺望することができます。

駅北側は日本初の歩行者専用道路「買物公園」へと繋がる、中心市街地にありながら、花木類・宿根草などおよそ350種類、8万株の花々が季節毎に咲き誇ります。

「**アウネの広場**」JR旭川駅南口を出てすぐの芝生広場。旭川の工芸品 優佳良織(ゆーからおり)をヒントにデザインした花壇、自生種の草花を主体とする花壇などが市民や旅行者の目を楽しませてくれます。

「**神人(かむんど)の森**」ガーデンセンターがあるメインエリアです。宿根草や一年草、ハーブや野菜も取り入れた多彩なテーマのガーデンが充実しています。ガーデンを含む北彩都あさひかわ地区は、2015年にグランドオープンして「日本都市計画学会計画設計賞」、「都市景観大賞(都市空間部門)」、「土木学会デザイン賞最優秀賞」などを受賞しています。また、ガーデンは国際的な造園賞である「**IFL AASIA-PAC L AWARD 2017**」の文化的かつ都市的な景観部門で最優秀賞を受賞するなど、海外でも高い評価を得ています。



A. キッコーニホン

マップコード:79 342 816*34

会社の起源は1891年(明治24年)。清酒工場として創業して50余年、第二次世界大戦最中に第7師団や道民の食生活を支えるため、しょうゆ工場として生まれ変わって80年の老舗、日本醤油工業(キッコーニホン)。創業時からの木造社屋や工場群は必見、売店も当時の建物を利用し、ノスタルジックな雰囲気はここでしか味わうことができない貴重な体験です。道内の多くの市町村の生産者とコラボした80種類以上のしょうゆやドレッシングなどはどれも味見ができ、さらにしょうゆ鮎やしょうゆアイスキャンデーなども人気の商品となっているほか、商品ラベルTシャツ、しょうゆを搾るろ布を利用したバッグなどの小物類も販売されています。

北海道旭川市曙1条1丁目 ⑩年末年始
⑩10:00～17:30 ☎0800-800-7772



B. 近藤染工場

マップコード:79 342 739*10

1898年(明治31年)創業。大雪山の伏流水を利用して、職人が1枚1枚染め上げた『刷毛引き本染め』で大漁旗、袴天、のぼり、幕、のれんなどを受注生産。同様の染め方で作られた手ぬぐい、風呂敷、コースター、トートバッグなどが販売されています。

染め物をより美しく発色させ、生地を質を高めながら深みのある染め上がりには、良質で潤沢な伏流水が欠かせません。

北海道旭川市1条通3丁目右1 ⑩日曜・祝日(土曜不定休)
⑩8:30～17:00 ☎0166-22-2255



C. 大雪地ビール館

マップコード:79 344 183*45

1900年(明治33年)から1913年(大正2年)にかけ、旭川駅に隣接して建てられた文化庁の登録有形文化財に指定されたレンガ倉庫群「蔵園夢(くらいむ)」の中央にあります。1996年から大雪山系の清水を用いた地ビール(クラフトビール)の醸造を始め、年間100kℓ以上を生産。

昼食時から、生ラムジンギスカンや、地場の特産を活かした多彩な料理が味わえます。

北海道旭川市宮下通11丁目1604番地の1 ⑩日曜(7月、8月は無休)
⑩11:30～14:00(ランチ) ☎0166-25-0400
17:00～22:00(ディナー)



D. 国高砂酒造株式会社

マップコード:79 315 876*27

酒造りは醸造用水や瓶詰用水など大量の仕込み水を使用します。日本酒は鉄分やマンガンの含有量が少ない方がよいとされ、またミネラルのバランス(カルシウムやマグネシウムなど)やPH値などの関係から、一概に取水深度は深ければ良いというわけではありません。

現在、地下約10mの水源からくみ上げた大雪山の伏流水を使い、原材料である酒造好適米には近年品種改良が進んだ北海道産米(吟風、慧星、きたしずく)を状況により、8割から9割使用。1929年(昭和4年)に施工された鉄筋コンクリート構造の製造工場は、当時北海道内では珍しい建造物で、全国でも3番目に古いコンクリート造の中で最寒の旭川の気候を利用して寒造りを行っています。

北海道旭川市宮下通17丁目右1号 ⑩年末年始
⑩9:00～17:00 ☎0166-22-7480

